

令和6年度第1回田辺市森づくり構想策定等委員会 会議録

日 時	令和6年7月9日（火） 午後2時00分～午後3時30分
場 所	田辺市役所 5階 会議室5-1
委 員	委員3名 ※欠席委員なし
傍 聴	報道1名、一般1名
会議事項	議 事 （1）令和5年度における事業実績について （2）令和6年度以降における施業等の展開について

議 事

（1）令和5年度における事業実績について

（事務局）

令和4年3月に策定した森づくり構想の基本理念や将来像、基本方針などを概要図により再確認し、基本方針に基づき令和5年度に実施した事業について、事務局から実績を説明。

【質疑応答】

（A委員）

順調に施策を増やししながら進めているという印象を受けた。

景観と安全を守る山村集落森林整備事業は、跡地の植栽まで行うのか。

（事務局）

そのとおり。

（A委員）

植栽樹種はどのようにして決めているのか。地元と相談してか。

（事務局）

和歌山県が郷土樹種として指定している樹種の中から、あまり大きくならない樹種を中心に、地元と相談しながら選定している。

（A委員）

専門的なアドバイスをくれる方はいるのか。

（事務局）

C委員に樹種や自生木の取り扱いなどの助言を頂きながら事業を実施した。

（C委員）

花木の採取など、地元の人にとって楽しみができる木が良いと考え、サカキ、ヒサカキ等を提案させていただいた。地元の方の反応はどうか。

（事務局）

鬱屈としていた雑木林が無くなり、見晴らしが良かった昔の風景が戻ってきたと喜んでくれている。

(A委員)

令和5年度の事業を実施した森林組合は、森林組合としては珍しく、企業の森活動等で培った広葉樹育成の知見を持っているので、植栽後の管理を含めてよいアドバイスをもらえると思う。

里山の再生についての知見が全国的にあまりなく、皆戸惑いながら試行錯誤しており、そのような中で以前からの取組が活かされていると感じた。

(B委員)

森林環境教育推進事業での子どもたちの反応はどうか。

(事務局)

子どもたちはみな楽しんでくれている。まずは子どもたちが森林に興味・関心を抱くきっかけづくりが大切と考えている。インタープリターが非常に良い働きをしてくれており、自然のものに触れることに抵抗がある子どもにも、上手くきっかけを与えてくれている。5年生を対象にしているが、「来年もう一回行きたい」との感想が出るなど好評いただいている。

(C委員)

森林環境譲与税の使途として、森林の整備をしていくのが一番大きな目的だと思う。それと併せて、事業成果をアピールすることも大切だと思うので、意向調査を実施した地区の地図が広報誌等に載れば、市民の期待感も高まるのではないかと。

意向調査の方針などはあるのか。

(事務局)

まずは、地籍調査が完了しており境界が明確で、人工林率が高い地区から進めている。令和5年度は中辺路町川合地区、中辺路町石船地区、龍神村宮代地区、本宮町伏拝地区、本宮町久保野地区、大塔熊野地区で実施した。意向調査は森林の所有者を対象としており、広く市民全体を対象としているわけではないため、そういった形での広報はしてこなかった。

(C委員)

看板などを設置して、整備後のきれいな山を見てもらえるようにすれば、森林環境税の効果を実感してもらえるのではないかと。

(事務局)

預かった森林の所有者には、毎年森林や間伐の状況が分かる写真をつけて、状況の報告を行っている。

(A委員)

予定を示す事は難しいかもしれないが、実施した地区は地図に表示しても良いかと思うがどうか。

(事務局)

意向調査は15年程度で市内1巡と考えているが、意向調査から時間が経つにつれ、当初と意向が変更する可能性があり、当初は自分で管理していくつもりでも、それが困難になっていく場合も出てくると考えている。そういった森林の整備推進も課題となってくるため、意向調査を実施した地区を完了地区として良いのかという思いもあるが、事業成果の広報も大切なので、広報の仕方については検討していきたい。

(A委員)

森林の育て人育成・確保対策事業は良い事業だと思う。市町村が預かっている森林は、手入れが難しい山もあると思うが、この事業の配分にあたって、場所等の配慮はしているか。
(事務局)

配分する森林は、事業体と協議しながら決めていくこととしており、一定のまとまりのある森林とするなどの配慮を行っている。

基本的には細い木の保育間伐となるため、初期の伐倒訓練には良いと考えている。

(A委員)

近年、特に紀南地方では、林業従事者の事故が多く、安全対策が重要な課題となっている。そういった部分に対してこの事業ではどのように対応しているのか。

(事務局)

森林の育て人育成・確保対策事業においては、市は間伐事業の発注者であり、新規就業者の訓練は事業体側の取組となっている。

安全対策については、令和6年度で事業化しているため、後ほど説明させていただきたい。

(2) 令和6年度以降における施策等の展開について

(事務局)

令和6年度以降に実施予定の事業について、新規施策を中心に、事務局から説明。

【質疑応答】

(A委員)

木のぬくもりプレゼント事業は、以前からやっていたものをこの事業でやることにしたのか。

(事務局)

寄付金を活用して、積み木と絵本をセットでプレゼントする事業を実施していた。絵本の方の寄付金はまだ残っているため引き続きそちらを活用するが、木のおもちゃ分の寄付金がなくなったため、プレゼント内容を再検討した上で継続することとした。

(A委員)

子どもはカラフルなおもちゃの方が好きだが、親の方がまず木の方を好きになるので、親への広報が効果的かもしれない。

(A委員)

民間施設木造木質化支援事業は、コンビニエンスストアやスーパーなども対象か。

(事務局)

現時点で、自動車販売店の木製品整備などの申請が上がっていると聞いている。県では今年から対象となったので、市としても足並みを揃えて今年から実施したいと考えている。

(A委員)

三重県は県として木育を推進しており、スーパーのキッズスペースへの木製遊具設置等に対する補助事業を実施している。

(事務局)

民間施設木造木質化支援事業は、木製品の購入も対象としているため、そのような事例に

も対応できる。

(A委員)

検討中の森林経営管理推進事業について、まとまりがなく狭小な森林等への対応ができないかということだが、この構想において自伐林家、自伐型林業の位置付けはどのようなものか。

(事務局)

構想を策定する中で、市内の自伐林家にお越しいただき話を伺ったこともあったが、その事業者の中には、規模を拡大し、森林経営管理制度を発注するための事業者登録をしている事業者もいる。そういった形で、森林組合だけではなく、森林整備の担い手を増やしていくことも大切だと考えている。

(A委員)

自治体によっては、山村集落森林整備として、自伐林業をやりたい人を地域おこし協力隊のような形で雇い、移住にもつなげている。県内では、紀美野町で自伐林家を地域おこし協力隊として募集している。田辺市は林業が比較的動いている地域なため、新規には参入しにくいかもしれないが、森林を生業とする多様な形があっても良いのではないかとも思うので、引き続き検討する余地があるのではないか。

(B委員)

森林整備担い手確保対策事業で講習受講の申請はあるか。

(事務局)

対象となる講習は多岐にわたり、補助金の募集はかけている状況であるが、現時点で申請は上がってきていない。

(A委員)

紀州備長炭後継者育成・確保対策事業は大事な事業だと思うが、一方で新規の製炭希望者の受け入れる余地がないようなことも聞く。紀州備長炭製作は、択伐施業で山へ木を伐りに行くところから始まるが、安全対策・技術講習などは林業の講習等を活用しているのか。

(事務局)

秋津川に研修窯が5基あり、令和5年から新規に一人研修に入っている。今年2年目で、技術も向上してきていると聞いている。

委員ご指摘のとおり、研修窯5基は埋まっているので、新規に受け入れられない状況ではあるが、希望者がなかなかいないという現状もある。

山での安全対策については、県主催で山づくり塾を年3～5回程度開催しており、そこに木炭生産者組合の方も積極的に参加し、技術習得に努めている。

(事務局)

今年度は、木炭生産者組合が秋津川で県の補助事業を受けて択伐施業を実施する取り組みも行っている。

(A委員)

少ない機会に見ただけではあるが、製炭士は林業よりも厳しい山で施業をしており、そのわりに軽装備であった。幸いにも事故などはあまり聞かないが、安全具をもっと充実させるために補助事業の必要性を感じた。

(A委員)

森づくり構想の策定により、環境・社会・経済の各分野に分けて施策や事業に取り組んでおり、見やすくなったと感じる。自分達としても、それぞれのバランスを見ながら考えられるので、効果があると思う。

新しい取組についても、森林環境譲与税を有効に活用するという意識が感じられる。

今まで森林に関する支出が社会から糾弾されることはあまりなかったが、森林環境税については、論調が変わってきているのを感じる。林業機械の補助事業等についても、林業事業者の生産性向上だけでなく、CO2 対策など環境面への寄与をアピールできれば、森林環境譲与税の意義をより分かってもらえるのではないかと。